

岡病防第20号  
平成30年10月2日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長  
(公印省略)

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第7号を下記のとおり発表したので送付します。

平成30年度病害虫発生予報第7号

平成30年10月2日  
岡 山 県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水 稻	トビイロウンカ	—	少
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	<b>やや多</b>
果 樹	カメムシ類	—	並
キュウリ	褐斑病	—	<b>やや多</b>
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	並
アブラナ科 野菜	ハクサイ白斑病 ハクサイべと病 軟腐病 黒腐病 コナガ ヨトウガ アブラムシ類 モザイク病 ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ オオタバコガ	— やや遅 — やや遅 — — — — — — —	<b>やや多</b> 並 並 並 並 並 <b>やや多</b> 並 <b>やや多</b> 並 並
キ ク	ナミハダニ オオタバコガ	— —	並 並

## 1. 普通作物

### (水稲)

#### 1) トビイロウンカ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 9月27～28日の巡回調査(南部地帯)では発生を認めず、発生圃場率は平年(19.1%)より低かった。

イ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

### (ダイズ)

#### 1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は4,770頭で平年(1,691頭)より多かった。

イ. 9月3～7日の巡回調査における白化葉(被害葉)の発生圃場率は20.0%で平年(26.4%)並であった。

ウ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 平成30年度植物防疫情報第6号(9月12日発表)参照。

## 2. 果樹(全般)

### 1) カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～5半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシは105頭で平年(98.4頭)並であり、クサギカメムシは3頭で平年(2.8頭)並、ツヤアオカメムシは153頭で平年(111.2頭)よりやや多かった。

## 3. 野菜

### (キュウリ)

#### 1) 褐斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 9月21日の巡回調査によると発生圃場率は100%で、平年(88.7%、過去10年のうち7年間は100%)並であった。

イ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、発病を助長する条件である。

(キュウリ、ナス)

1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月20、21日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(アブラナ科野菜)

1) ハクサイ白斑病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 9月20、21日の巡回調査によると発生圃場率は57.1%で、平年(21.4%)より高かった。

イ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、発病を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 秋作では生育中期から結球期に初発生することが多いので、初期防除を徹底する。

2) ハクサイべと病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月20、21日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(8.5%)よりやや低かった。

イ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、発病をやや助長する条件である。

3) 軟腐病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月20、21日の巡回調査によると、ダイコンでは発病圃場率は60%で平年(22.1%)より高かった。ハクサイでは発生を認めず、平年(1.7%、過去10年のうち8年間は0%)並であった。

イ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、発病を助長する条件である。

4) 黒腐病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月20、21日の巡回調査によるとキャベツでは発生を認めず、平年(7.0%、過去10年のうち7年間は0%)並、ハクサイでは平年同様発生を認め

なかった。

イ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、発病を助長する条件である。

5) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は3頭で、  
平年(1.5頭)並であった。

イ. 9月20、21日の巡回調査によるとダイコンでは発生圃場率が40%で平年  
(40.4%)並、キャベツでは20%で平年(7.4%)よりやや高く、ハクサイ  
では0%で平年(3.7%)並であった。

ウ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされ  
ており、特に発生を助長する条件ではない。

6) ヨトウガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月20、21日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされ  
ており、特に発生を助長する条件ではない。

7) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量           アブラムシ類           **やや多**  
                  モザイク病           並

予報の根拠

ア. 赤磐市の黄色水盤における9月1～5半旬の飛来数は1,230頭で平年(674  
頭)より多かった。

イ. 9月20、21日の巡回調査によると、ダイコン、ハクサイ、キャベツのい  
ずれにおいてもアブラムシ類の発生を認めず、発生圃場率は平年(ダイコン  
0%、ハクサイ2.5%、キャベツ2.5%)並であった。

モザイク病は、ダイコン、ハクサイとも発生を認めず、発生圃場率は平年  
(ダイコン11.2%(過去10年のうち直近6年間は0%)、ハクサイ1.0%)  
並であった。

ウ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされ  
ており、特に発生を助長する条件ではない。

8) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量                           **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は4,770頭  
で平年(1,691頭)より多かった。

イ. 9月20、21日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされ  
ており、特に発生を助長する条件ではない。

9) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月20、21日の巡回調査によると発生量は平年並であった。

イ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

10) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は1頭で、平年(2.9頭)並であった。

イ. 9月20、21日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

4. キク

1) ナミハダニ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月20日の巡回調査によると発生圃場率は0%で、平年(5.2%)よりやや低かった。

イ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

2) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は1頭で、平年(2.9頭)並であった。

イ. 9月20日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月27日発表の季節予報によると、10月の気温は高く、降水量は多いとされており、特に発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

